

自助 ～まずは自分の安全は自分で守る～

非常時持ち出し用品

非常時に持ち出すものを準備しておきましょう。災害のときに家族の誰が何を持ち出すか決めておいてください。食料品などは点検もかねて定期的に交換しましょう。



■各人が準備するもの：

ヘルメット／手袋／衣類（長袖）／タオル／懐中電灯／現金（小銭も）

■家庭で準備するもの：

食料品／水（1人9割）／携帯ラジオ（予備電池も）／救急薬品／カセットコンロ（予備ボンベも）／アドレス帳／通帳のコピーと印鑑／ロウソク／ライター・マッチ／ナイフ／雨具／ティッシュ

鳥取市防災マップ

鳥取市を4つのエリアに分けて避難所や危険箇所を記載した防災マップを作成し、全戸に配布しています。家族でいっしょに避難場所や避難経路を確認しておきましょう。



災害用伝言ダイヤル171

NTTでは、震度6弱以上の地震発生時などの被災地への安否確認電話が集中する際に、「災害用伝言ダイヤル」を開設します。サービスの開始はテレビ・ラジオなどで通知がありますので、「171」をダイヤルし、利用ガイダンスに従って利用してください。

携帯電話「災害用伝言板」

大規模な災害が発生した場合、NTTドコモの「iMenu」、auの「EZweb」、ソフトバンクの「Yahoo!ケータイ」のトップに「災害用伝言板」が追加され、自らの安否情報を登録することができます。登録された伝言は、他社の携帯電話やインターネット接続が可能なパソコンから参照できます。

平成19年度鳥取市総合防災訓練

地震による災害を想定し、市、関係機関、市民が参加して防災訓練を行います。

- とき：9月10日（月）10：00～12：00
- 会場：(1)鳥取市役所本庁舎（訓練災害対策本部）
(2)岩倉小学校
(3)鳥取港
(4)賀露白浜運動場
(5)鹿野小学校
(6)各事業所・各自主防災会など市内一円

※当日は、会場周辺をヘリコプターが飛行します。ご理解とご協力をお願いします。

■問い合わせ先：

市役所本庁舎危機管理課 ☎ (0857) 20-3102



災害への備えを 万全に

地震、風水害などの自然災害は人間の力では食い止めることができません。「いつやってくるかわからない」といって心持ちでいるために、日ごろから災害の備えを万全にしておきましょう。今回は、みなさんの家庭でできる災害への備えをまとめました。



共助 ～災害が起こったときは 周りの人との助け合いが大切～

自主防災組織

地域の自主防災組織に積極的に参加し、防災訓練などを通じて日ごろから近所同士での防災意識を高めましょう。

災害時要援護者

大きな災害の際には、救助隊が到着するまでの間、地域で避難活動を行う必要があります。

本市では「鳥取市災害時要援護者支援制度」を設けています。自分で避難することが困難な人は市役所に申請し、要援護者の登録をしてください。また、日ごろから地域で支援組織と要援護者がコミュニケーションを持ち、スムーズに援護できるようにしておきましょう。

地震から身を守る

まずは身の安全を確保

揺れを感じたら、すぐにテーブルなどの頑丈な家具の下にもぐりましょう。座布団やクッションなどで頭をカバーするようにしてください。

避難路の確保・火の始末

揺れがおさまったら、戸を開けて出口を確保するとともに、すばやく火の始末をしてください。コンセントやガスの元せんの処置も忘れずに。

避難所などへ避難

避難は徒歩で。荷物は最小限にしましょう。

赤ちゃんが安心して健やかに育つこぼし

ブックスタート事業の取り組み

ブックスタートとは

赤ちゃんの体の成長にはミルクが必要なように、心の栄養には抱っここの温かさの中で保護者と語り合う時間が大切です。

ブックスタートとは、絵本を通して赤ちゃんに保護者がかけがえないひとときを持つことを応援する運動です。

本市の取り組み

本市では、平成15年度から子育て支援の一環として、ブックスタート事業を行っています。当事業は、読み聞かせボランティア、保健師、図書館司書の3者が協働で運営しています。

ブックスタートの様子

6カ月健診の時に、わらべ歌や手遊びなどの紹介を交えながら、絵本の読み聞かせをし、ブックスタートの大切さを伝えるとともに、絵本2冊と子育てのアドバイス集をお渡ししています。

赤ちゃんの世話に追われがちな毎日の暮らしの中で、赤ちゃんと気持ちを通わせる遊びの方法を体験してもらいます。

心地よいリズムの言葉を聞きながら笑ったり、声を上げたり、手を伸ばしたりと、表情豊かな赤ちゃんの様子に、お母さん、お父さんの顔も自然にはこころできます。

地域でもふれあいのこころを

健康調査の際に行っているアンケートでは、事業開始前の平成13年には「絵本を毎日楽しんでいません」「週3〜4回楽しんでいますが」と答えた人が42割でしたが、平成18年には58割まで増えました。

これからも、絵本を通じて家庭でのふれあいのひとときを過ごしていただくとともに、地域の中で子育てを応援する環境をつくるためのお手伝いを続けていきます。



Bookstart

～ゆっくり ゆったり にっこりと～

読み聞かせボランティアの声

- 導入当時は『赤ちゃんに絵本が分かるの?』といった声もありましたし、私たちもそう思っていました。最近では『絵本は楽しむもの』という意見が定着し、親子で絵本を開く時間が子育て生活の中に自然にとけこんでいるように思います。
- 図書館や地域でのおはなし会で、以前に比べて赤ちゃんを連れてくる人が多くなりました。
- 赤ちゃんとその保護者の笑顔を見るたびに『関わってよかった』と感じています。

参加したお母さん・お父さんの声

- 6カ月の子どもも絵本を見る目が夢中でびっくりしました。
- あんなにうまくいかないけど、家でも絵本を読んであげようと思います。
- 子どもの目を見ながらゆっくりと読み聞かせしてもらおうと、子どももじーっと見つめたり体を動かしたりして大喜びでした。

問い合わせ先:

中央保健センター母子保健係
(さざんか会館内) ☎ (0857) 20-3196
中央図書館児童担当 ☎ (0857) 27-5182

